

## 令和6年度 名古屋大学総長顕彰授与式が行われました

令和7年3月25日(火) 於 豊田講堂

学修への取り組み 受賞者	
所属	氏名
文学部 人文学科 4年	曾根 実咲
教育学部 人間発達科学科 4年	柿澤 のぞみ
法学部 法律・政治学科 4年	神谷 美咲
経済学部 経営学科 4年	篠原 有香
情報学部 自然情報学科 4年	森元 拓
理学部 数理学科 4年	河阪 真之介
医学部 医学科 6年	古道 万喜
工学部 電気電子情報工学科 4年	下井 舜也
農学部 資源生物科学科 4年	谷内 桂子

正課外活動への取り組み 受賞者		
所属	氏名 / 団体名	分野
医学部 医学科 4年	竹田 聖彩	社会への貢献活動
文学部 人文学科 4年	石田 奈津子	国際交流・社会への貢献活動
医学部 医学科 3年	北芝 礼	正課外活動（部活動等）
理学研究科 理学専攻 博士後期課程1年	谷田 幸貴	正課外活動（部活動等） 社会への貢献活動（部活動等・スポーツ）
—	RUMI Jepang 在日インドネシア人の家	社会への貢献活動

(2025年3月時点)

【学修への取り組み 授与式の様子】



曾根 実咲さん（文学部）



柿澤 のぞみさん（教育学部）



神谷 美咲さん（法学部）



篠原 有香さん（経済学部）



森元 拓さん（情報学部）



河阪 真之介さん（理学部）



古道 万喜さん（医学部）



下井 舜也さん（工学部）



谷内 桂子さん（農学部）



【正課外活動への取り組み 授与式の様子】



前方左から：杉山総長、佐久間副総長

後方左から：竹田聖彩さん（医学部4年）

RUMI Jepang 在日インドネシア人の家 代表：鈴木彩莉さん（国際開発研究科M2）

谷田幸貴さん（理学研究科D1）

石田奈津子さん（文学部4年）

北芝礼さん（医学部3年）

曾根 実咲 文学部 人文学科 4年

## 努力と挑戦が生んだ刺激溢れる大学生生活

私は大学生生活を通じ、「自分の限界を決めないこと」「世界を見る目は変えられる」という価値観のもと、多様な学びと挑戦を続けてきました。入学前から志していた交換留学の実現に向け、1年次から全科目で高成績を目指し、入学後に始めたフランス語学習でも短期間で日常会話レベルの試験に合格。各種奨学金を得て念願の留学を果たしました。留学中は専門分野に限らず幅広い授業や文化イベントに参加し、多文化共生的な環境の中で適応力を養い、最終的には現地大学院入学資格レベルの語学試験にも合格しました。帰国後も語学力向上に努め、留学生支援や長期インターン、卒業論文に取り組み、最終学期には GPA4.3 を取得することができました。

今後も、これまでに培った多言語環境での学びや柔軟な対応力を活かし、グローバルに生きることを軸に、日本での実務経験を積みながら海外大学院進学やキャリア形成を視野に入れ、自分らしい人生の選択をしていきたいです。

**講評：**明確な目標のもと地道な努力を積み重ね、優秀な成績をあげるとともに、チャンスを逃さない積極性を発揮したことは高く評価できる。フランスへの留学経験を通して、様々な壁にぶつかりつつも、語学力のみならず異文化理解の面でも大きく成長したことも大いに評価に値する。今後とも、「自分の限界を決めない」という信念を忘れず、グローバルな活躍を期待したい。

柿澤 のぞみ 教育学部 人間発達科学科 4年

## 問いに向き合い続けた4年間

4年間の大学生生活を通して、「なぜ学校で学ぶのか」という問いに、様々な角度から向き合ってきました。1年次から活動してきた障がい者支援サークルである「ちくさ日曜学校」では、楽しむ場であり、居場所でもある「学びの場」の魅力を教えてもらいました。3年次には、アメリカの小学校での教育インターンシップに参加しました。言語も文化も異なる学校において、子どもたちや同僚の先生方とのコミュニケーションに励んだ日々は、教育だけでなく、自分自身の生き方についても向き合うきっかけになりました。卒業論文やゼミ活動においては、子ども自身が主体となって実現する学校づくりの理論と実践について学びました。教育学部の先生方や友人と議論を交わす中では、私自身が、学ぶことの楽しさを実感することができました。卒業後は高校教員として、子どもたち一人ひとりの声に向き合いながら、主体的な学びを引き出す教育実践を、追究してまいります。

**講評：**日本の学校教育制度への問題意識を入学当初から一貫して持ち続け、学修と同時に学外の教育研究会への参加、教育現場でのフィールドワーク、米國小学校での教育実践など様々な取り組みを通して、自らの問題意識と向き合い続けた意欲・姿勢は高く評価できる。今後とも、「開かれた学校づくり」を目指して、仲間とともに、教育現場の改革を目指していただきたい。

## 神谷 美咲 法学部 法律・政治学科 4年

### 縁に恵まれた4年間

民事訴訟法ゼミで法的紛争解決の基礎を身につけると同時に、国際的かつ学際的にアイデアを持ち寄って学ぶ楽しさに夢中になった4年間でした。大学3年時にはノースカロライナ大学チャペルヒル校と共同で行われた日米サイバーセキュリティ研修に参加し、新たな科学技術と法や行政の相互作用を実践的に学びました。また、伝統的かつ知的な刺激で溢れるケンブリッジ大学セントジョンズカレッジで、素晴らしい仲間と共同生活を行い、文化を分かち合い、共に学びました。これらの貴重な出会いはいつも私の挑戦の後押しをしてくれました。議論に貢献するために自分の専門性をもっと高めたいと強く思ったと同時に、法や政治の分野で解決できないことが技術で解決でき、技術の進化や社会への導入を法や政治がサポートできるということを実感しました。

現在は在名古屋米国領事館でインターンを行い、大統領の交代によって大きく政策転換をするアメリカを目撃しています。卒業後は海外の大学院に進学し、国際安全保障における多国間協力を学びます。

**講評：**学部での学びから国際問題に強い関心を持ち、数多くの国際研修への参加や留学を通じ、国際問題への理解深耕、自己研鑽に努め、弛まぬ努力の上、国際性を高めてきたことを高く評価する。能動的に邁進されてきたことが実り多き縁を引き寄せたとも言える。国際安全保障への専門性を高め、グローバルで大いに活躍することを期待している。

## 篠原 有香 経済学部 経営学科 4年

### 知的好奇心を旺盛に

私は、「知的好奇心を旺盛に」をテーマに4年間学業に取り組み、経済・経営に関する知識を体系的に身につけました。

大学1年次に会計学に興味を持ったことをきっかけに、簿記資格を取得し、その後も会計学の知識を深めていきました。大学で得た学術的知見は実生活でも活かすことができ、例えばアルバイトのレジ締め業務を通して、売掛金、利益の仕組みについてより実践的に学びを修めることができました。また、会計学以外にも学部の多様な講義を履修し、興味をもった分野を深掘りして知見を深めたり、資格取得に励んだり積極的に学びを修めました。

卒業後のキャリアパスとしては、企業の財務・会計・経理職で、学生時代に学んだ知識を活かしつつ新たな知識を吸収して自分の武器を増やしていき、経済・経営の知識を兼ね備えた職業会計人として成長したいと考えています。

**講評：**高い学業成績をあげるとともに、自らの意思で会計プロフェッションを志し、そのキャリアパスを実現したことは、後輩学生のロールモデルとして高く評価できる。知的好奇心が旺盛で、意識的に幅広い学びを心掛けてきたことも大いに評価に値する。今後とも、在学中に身につけた知識を活かし、会計プロフェッションとして一層成長していただきたい。

## 実践的な学びの成果

私はこの4年間、学業と研究に励みながら、実践的な活動にも積極的に取り組んできました。特に競技プログラミングには力を入れて取り組み、2023年度の国際大学対抗プログラミングコンテスト ICPC では、アジア地区予選に出場することができました。競技プログラミングをきっかけに、数理最適化やグラフ理論の分野に興味を持ち、卒業研究ではアルゴリズム的グラフ理論に関する未解決問題に取り組みました。この研究をとおして、競技プログラミングで培った専門的な知識はもちろん、典型的な問題の理解をもとに、より複雑な問題へと応用・発展させていく力を大いに生かすことができたと感じています。また、研究結果としては、部分的にはありますが解決に至ることができ、学会での発表も経験しました。卒業後は大学院に進学し、同テーマの研究をさらに深めながら、より専門的な知識を身につけ、様々な研究テーマに挑戦していきたいと考えています。

**講評：** 学修成績が優秀であるだけでなく、幅広い分野の学修を心掛けてきたこと、卒業研究においても難度の高いテーマに果敢に挑戦し、見事に解決の見通しが立つ段階までこぎつけたこと、これらはいずれも傑出した能力を示しており、高く評価できる。今後とも、学問全体に対する探究心と様々なことに挑戦する気持ちを持ち続け、更なる高みを目指していただきたい。

## 学びを積み上げ続けた4年間

私は大学生活では、入学以前から興味があった数学の勉強に尽力してきました。主体的な学習を心がけ、講義以外でも興味のある分野を先取りして勉強しました。その中で可換環論という分野に興味を持ち、卒業研究では可換環論のクラスに所属して基礎を習得しました。また、そこで行った議論で先輩の書く論文の進展に貢献でき、その論文の共著に加わらせていただきました。

日々の勉強で特に意識したことはとにかく正確に理解することです。単純ですが簡単なことではありません。数学は論理の積み重ねでできているため、その論理を少しでも誤ると間違った結論が出る恐れがあります。そのため、教科書などを読むときは一行一行を自分で説明が出来る程丁寧に粘り強く読むことを心がけました。

卒業後は大学院に進学します。可換環論の学習を深めるだけでなく研究者としての経験も積み、可換環論の発展に貢献していきたいと考えています。

**講評：** 学修成績が極めて優秀であることはもとより評価に値するが、とりわけ専門とする数学の分野では、抽象度の高い可換環論の輪読において大学院生を凌ぐ理解力を示し、大学院進学後早々に論文を書き上げるほどの実力が認められていることは高く評価できる。今後とも、数学に対する天賦の才を存分に発揮し、数学者として大成されることを期待している。

## 古道 万喜 医学部 医学科 6年

### 基礎研究に魅せられて

私は大学の入学当初から基礎研究に関心があり、講義が始まってから数ヶ月後、思い切って研究室に足を踏み入れました。研究を進める上で必要とされる知識は、学部で学ぶ内容とは毛色が違い、最初は戸惑うこともしばしばでした。しかし、先生方のご指導や自分なりの勉強を重ねたことで、研究の意味や全体像を少しずつ理解できるようになりました。半年間の研究室配属期間をはじめ、試験や実習の合間を縫って実験を行い、得られた研究成果を元に国内外の様々な学会に足を運び、さらには論文として発表することもできました。こうした経験を通して、研究の面白さを共有できる友人たちや後輩、また教授陣をはじめとした数々の先達と言葉を交わし、人間的に大きく成長することができました。

卒業後は、初期臨床研修の傍ら、大学院進学に向けて研究活動に尽力します。己の好奇心と、社会の礎となる知見の探究を併存させられるテーマを模索し続けます。

**講評：**学業と部活動を両立させつつ優秀な成績をあげたこと、粘り強い実験の結果、基礎医学セミナーで優秀賞を受賞したこと、自らの意思で生理学研究所や他教室における技術習得等の活動に取り組み、研鑽を重ねてきたことは高く評価できる。高い志はそのままに、持ち前の知的好奇心、実験遂行力、論理的思考力、洞察力を活かして、研究者として大いに活躍することを期待したい。

## 下井 舜也 工学部 電気電子情報工学科 4年

### 未来の光ネットワークを創造するために

通信技術の本質は、距離や環境に左右されない普遍的な接続性の確立にあり、世界中の人々が瞬時につながる社会を実現することです。

私はこの特性に強く惹かれ、学部3年次から本格的な研究に取り組みました。中でも、光ネットワークの性能限界を精緻に解析するとともに、高精度な評価手法を構築する研究に注力し、国内外の研究機関との連携を通じて発展させました。その成果を光学分野で最も権威ある国際学会で発表し、高い評価を得ました。様々な手段で性能向上を図る研究が主流の中で、私は逆に性能向上の余地を明確に示すことで、学部生ながらこの研究分野に一石を投じることができたと考えています。

来年度からは大学院に進学し、未来の光ネットワークを創造するために、最前線を切り拓く研究に邁進します。世界中のあらゆる場所で誰もが平等に高度な通信環境を享受し、高速・大容量の通信で新たな価値を生み出す社会を築くことが、私の目標です。

**講評：**光ファイバーネットワークの設計・制御に関して学びを深め、国内のみならず国際学会においても第一著者として研究発表を行った経験を持つこと、国内外の大学との共同研究に参画して成果を上げていることを高く評価する。卒業後は大学院進学されるとのこと、更に研究に真摯に取り組み、当該分野の学術研究において将来を担う人材に成長することを期待したい。

## 農学を通して人や社会の役に立てるように

私は食料問題の解決に貢献できるような研究をして、人々の健康を食という面から支えたいと思い、農学部に進学しました。そのような意義のある研究をするためには、農学だけでなく生物学や化学、統計学などの幅広い知識の基盤が必要と考え、1年次から様々な科目を積極的に履修し、基礎的な知識の研鑽に努めました。

また、国内外の農業現場への理解を深めるために、大学3年次には、海外の学生と共に日本およびカンボジアでフィールドワークを行いました。実際の現場を訪れることで、各国の農業の実情を知り、改めて農学の重要性を体感するとともに、英語でのコミュニケーションおよび発表を通して語学力を養いました。

現在は、病害による作物収量の損失を克服するため、病原微生物に対する植物の免疫機構について研究しており、引き続き大学院に進学して研究を深めます。今後も、名古屋大学で培った知識を活かし、夢の実現に向けて精進していきたいと思います。

**講評：**研究を通じて社会に貢献したいという意志を持ち本学に入学され、密接に関わる健康と食への貢献のため農学のみならず関わる分野を体系的に学び、基礎知識を研鑽された。研究室での真摯な研究の結果、新しい免疫活性化物質の発見に至ったことは誰もが成し得ることではない。今後とも、研究に邁進され、人と社会の一助を担う一員に成長されることを期待する。

竹田 聖彩 医学部 医学科 4年

## 水の広報官としての活動

ミス日本「水の天使」として水の広報官の活動を務めてきました。ミス日本コンテストは1950年に日米親善使節の選考のため始まりました。ミス日本の活動は、日本の魅力の見聞を深め、伝える力を養うものでした。私は特に、日本の生命線である上下水道について、専門的に活動しました。上下水道は重要なインフラですが、管路の老朽化は深刻です。この実情を伝えるべく、国際活動や国内の上下水道に関する発信を継続しました。多くの施設へ実際に足を運び、表敬を含む政府提言活動では、当時の岸田総理、国土交通大臣、外務大臣、自民党本部をはじめとする皆様へ、水に関する提言を行いました。また、アジア各国参加の国際会議にて司会を英語で務めました。上下水道は止めることが許されません。これは水業界の皆様の熱意と優れた専門技術によってなんとか成り立つ繊細な仕事の結果です。将来は水と医療の架け橋となれるよう、学び、行動し続けます。

**講評：**ミス日本「水の天使」として、水循環に関する広報活動に取り組まれた活動は誰もが経験できるものではなく、大学生活だけでは得られない貴重な経験である。学業においては、研究成果発表会で最優秀賞を受賞され、広報官活動と学業とを見事に両立されたことは弛まぬ努力の結晶といえる。医師として、ぜひ研鑽された知見を活かし活躍を祈念している。

石田 奈津子 文学部 人文学科 4年

## 「自分のため」が、「誰かのため」に

大学4年間で、私は好奇心のままに多くの活動に取り組んできました。外国人への日本語学習支援、名大博物館での子ども向けイベントの運営、台湾での通訳や国際交流、モンゴルやエチオピアでの教育・調査活動など、多様な経験を積むことができました。これらの活動を通じて、私自身が新たな視点を得るとともに、多くの人との出会いに支えられてきました。

これらはすべて「自分のため」に始めた挑戦でした。しかし、友人や先生方の支えのもと続けるうちに、それが誰かの役にも立っていることに気づきました。異文化理解を深めることで、相手の世界が広がる瞬間を目の当たりにし、自分の経験が「誰かのため」にもなるのかもしれないと考えるようになりました。

今後は、自分が与えてもらったたくさんの機会から得た経験を活かし、文化保護施策の発展や国際交流の促進に携わり、より多くの人々が異文化と出会い、新たな挑戦ができる環境を作っていきたいです。

**講評：**本学博物館での教育イベントの運営に加え、モンゴル、台湾、エチオピアにおいて教育ボランティアに取り組むなどの行動力を高く評価している。知的好奇心も旺盛で、国内外の専門家に自らインタビューを重ねたことも知見の拡がりに繋がっている。今後も持ち前の行動力と知的好奇心を活かして、研究とともに、教育支援活動にも大いに取り組んでいただきたい。

北芝 礼 医学部 医学科 3年

## 長年の努力で掴んだ世界大会

私は、小学1年生のころから今に至るまで長きにわたって囲碁に取り組んできました。プロ棋士を目指していた時期もありましたが、今は一つの趣味として囲碁を続けています。

私は、2023年から2024年にかけての大学生の全国大会での成績が評価され、2024年12月に開かれた第8回世界大学生囲碁選手権の日本代表選手に推薦されました。そして、その世界大会では優勝することができました。

今後も、囲碁の勉強を続けて大会などで活躍したいです。また、囲碁を通じていろいろな方々と交流ができたので、そのつながりを大事にしていきたいです。そして、囲碁をすると前頭葉が活性化されるようで、認知症の予防にも効果があると言われていています。長い間続けてきた囲碁を、このような医療などの何らかの形で社会にも役立つような活動につなげられればいいなと思います。

**講評：**幼少期から囲碁に取り組み、研鑽の結果、全日本学生囲碁大会に続いて、世界大学生囲碁選手権でも優勝という偉業を成し遂げられたことは大変素晴らしい。また、囲碁と医学部での学修を両立されていることも大いに評価に値する。囲碁を通じて培われた判断力、集中力、忍耐力は医師にも求められる力であり、身につけたこれらの力を活かして、医師としても大いに活躍していただきたい。

谷田 幸貴 理学研究科 理学専攻 博士後期課程 1年

## 名古屋大学の「勇気ある知識人」の知識とは私にとって何か？

私は博士前期課程に進んでよく考えるようになった、この問いの答えを明らかにしたいと思い、団体・個人活動に取り組んできました。

団体活動では、去年はTEDxNagoyaUのスピーカーチームリーダーとして登壇者のトーク作成を支援し、現在では学生アウトリーチ団体KMISCTにも所属し、ポッドキャスト企画「素粒子宇宙円卓会議」を運営しています。個人活動では、大学院の中で感じた「なぜを見つけて行動に変える興味のカ」をテーマに、TEDxUSHに登壇しました。以上の活動を通じて、私の答えでしかありませんが、大学院で得たプレゼン力や積極性等だけでなく、大学院生だからこそ見える世界も、私にとっての知識なのだと実感できました。

今後は、この知識をどのように組み合わせ、新たに何を生み出すことができるかを模索しながら、新しい活動にも取り組んでいきたいです。

**講評：**専門的な研究に従事する傍ら、社会貢献への意思を強く持ち、TEDxUSHやハッカソン「HACK the NAGOYA」に参加し成果を上げたこと、また、団体としては、TEDxNagoyaUや学生アウトリーチ団体KMISCTで、イベントの実施やアウトリーチ活動に尽力したことは高く評価できる。今後とも、自己研鑽に励むとともに、団体での活動等を通して、社会貢献への思いを実現していただきたい。

## RUMI Jepang (在日インドネシア人の家)

### 移民労働者を支援し、包括的な社会を目指す

私は 2022 年に日本人と結婚し、来日しました。日本に来てから通訳のアルバイトをする中で、多くの困難を抱えるインドネシア人労働者と出会いました。特に技能実習生が多く、言語や労働環境の問題に直面していることを知りました。そのことがきっかけで本学の国際開発研究科に入学し、移民と開発についての研究を始めました。

同じテーマを研究する仲間と共に、在日インドネシア人の支援を目的とした「RUMI Jepang」を設立しました。労働者の権利意識の向上、法的支援、エンパワーメントの促進を目的に日夜活動しています。具体的には、インドネシア人が使用する SNS を通じて、日本での生活や労働に関する情報を発信し、LINE を利用した個別相談も行っています。

インドネシア人労働者は今後さらに増加することが考えられますが、母国語での相談窓口の不足が依然として課題です。より幅広い支援を行うため、他団体との連携を強化し、支援するための取り組みを続けていきます。

**講評：**在日インドネシア人労働者の支援を目的として設立された数少ない NPO 法人として、本学学生である代表者ともども、法的支援、情報発信、個別相談、政策提言など、さまざまな活動を積極的に展開してきたことは高く評価できる。今後とも、在日インドネシア人の方々が安定した生活基盤を築くための支援を継続するとともに、日本とインドネシアの懸け橋としての役割を担うことも期待したい。

## 令和6年度総長顕彰を終えて 総評

総長顕彰制度は、学問の研鑽や文化・社会活動等を通じて「名古屋大学学術憲章」の目指す人物像を実践している学生を讃えるとともに、その活動を広く周知することにより、優れた人格と創造性を兼ね備えた人材のさらなる創出の促進を図ることを目的として、平成15年度に創設された。

今年度で22回目を迎える総長顕彰制度へ推薦・応募があった学生達は、いずれもその意欲や姿勢、各活動への情熱や熱意において素晴らしい学生ばかりであった。

惜しくも受賞に至らなかった学生も甲乙付けがたく、今後の活躍を楽しみにするとともに、あらためて総長顕彰に挑んでいただきたい。

受賞した学生・団体には、名古屋大学が育成を目指す「勇気ある知識人」として更なる研鑽を積み、今後の学生生活、社会生活において、後に続く名古屋大学生の目標となるような人材に成長することを期待したい。

令和6年度総長顕彰委員会委員長 佐久間 淳一

### 令和6年度総長顕彰委員会

佐久間 淳一委員長（副総長・学生支援担当）

中東 正文委員（法学部長）、清水 克俊委員（経済学部長）、木村 宏委員（医学部長）

小橋 眞委員（工学部長）、江原 宏委員（農学国際教育研究センター）

原田 正康委員（生協理事長）

本顕彰に係る募集は、各部局への募集要項等送付、ポスター、ホームページを通じて、令和6年12月2日（月）～令和7年1月7日（火）の期間に行われ、その結果「学修への取り組み」部門に9件の学部推薦、「正課外活動への取り組み」部門に自薦・他薦を合わせて11件の応募がありました。

これら合計20件の推薦・応募について、総長顕彰委員会による厳正な審査及び合議を経て、最終的に「学修への取り組み」部門から9名、「正課外活動への取り組み」部門から個人4名・団体1組の総勢13名の学生及び1件の学生団体を令和6年度総長顕彰として表彰することを決定しました。